

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年5月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第6週の報告数21,068件をピークに減少傾向にあります。小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒の報告は13件で、高い水準で続いています。20代の女性の報告もみられます。

◇ 全数把握の対象

<5月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	3件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
デング熱	1件	水痘(入院例に限る)	3件
レジオネラ肺炎	1件	梅毒	13件
アメーバ赤痢	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	破傷風	1件

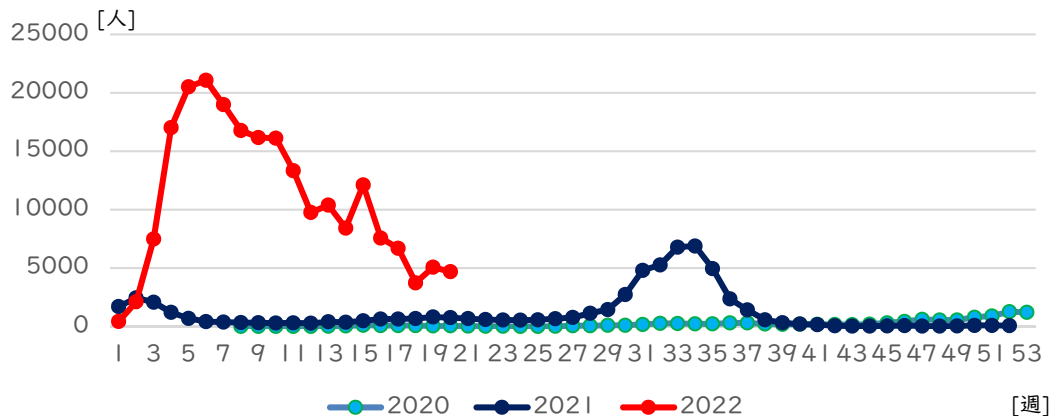
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が1件、O26の報告が2件ありました。1件は経口感染と推定され、2件は感染経路等不明でした。
- 2 E型肝炎: 経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 3 デング熱: フィリピン(セブ島)での滞在中に蚊に刺されて感染したと推定される報告が1件ありました。
- 4 レジオネラ症: 水系感染と推測される報告が1件ありました。
- 5 アメーバ赤痢: 国内での経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 感染経路等不明の報告が5件ありました。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群の報告が1件あり、尿路感染と推定されています。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満(ワクチン3回接種)の報告が1件ありました。
- 9 水痘(入院例に限る): 20歳代(ワクチン1回接種)、30歳代(ワクチン接種無)、80歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が3件ありました。
- 10 梅毒: 早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。性的接触による感染が13件(異性間9件、同性間1件、詳細不明3件)でした。20代の女性の報告もみられます。
- 11 播種性クリプトコックス症: 免疫不全に伴う感染と推定される報告が1件ありました。
- 12 破傷風: 国内での創傷感染(ワクチン接種歴不明)と推定される報告が1件ありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

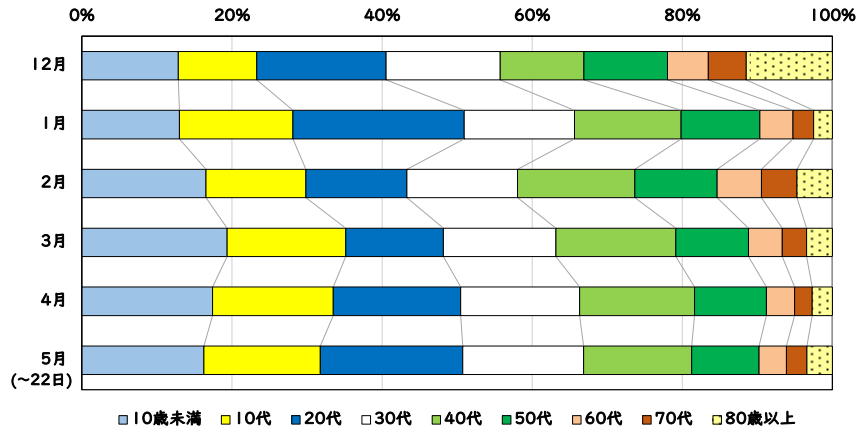
第17週～第20週に横浜市から報道発表がありました症例は20,180件でした。

- ◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

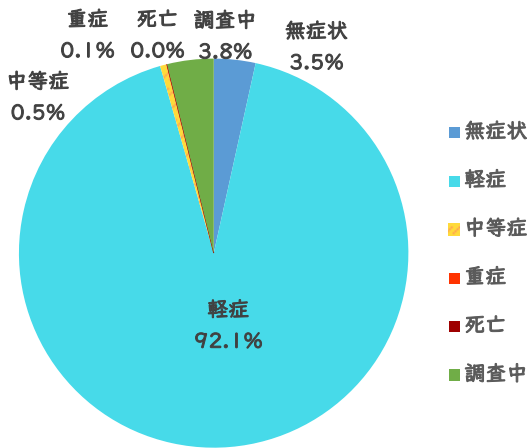
1 報告数の推移



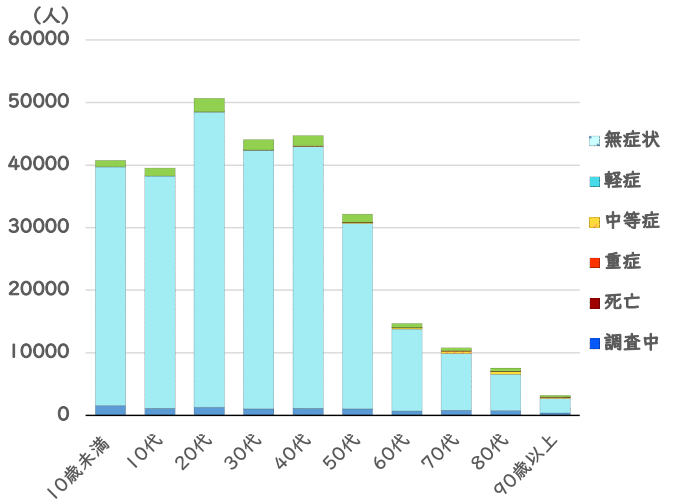
2 年齢層別患者割合



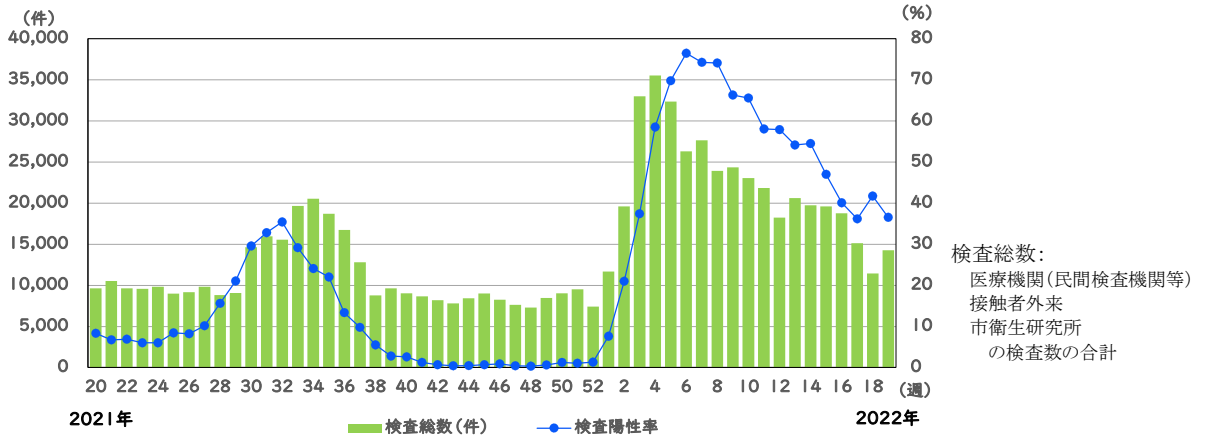
3 陽性確定時の症状の割合(2022年第20週まで)



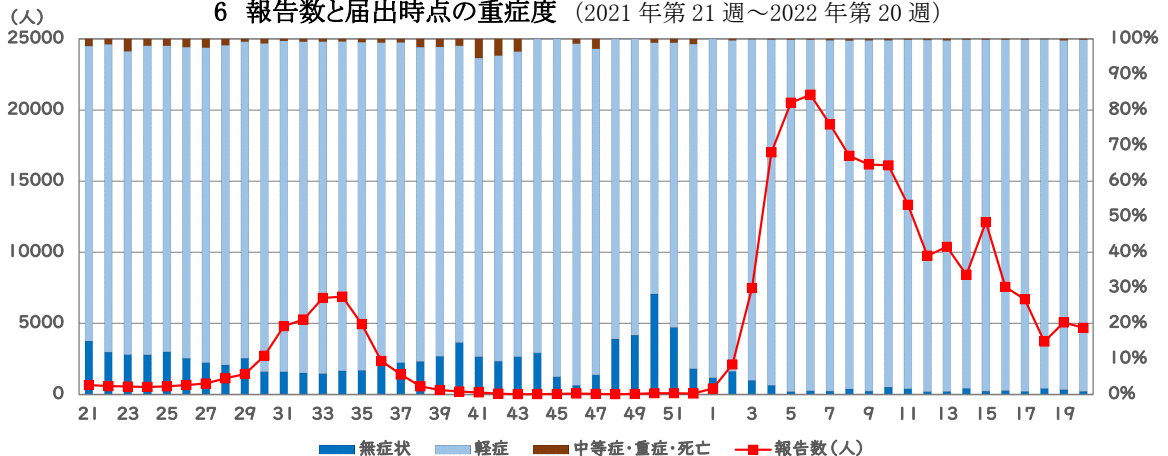
4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022年第20週まで)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021年第20週～2022年第19週)



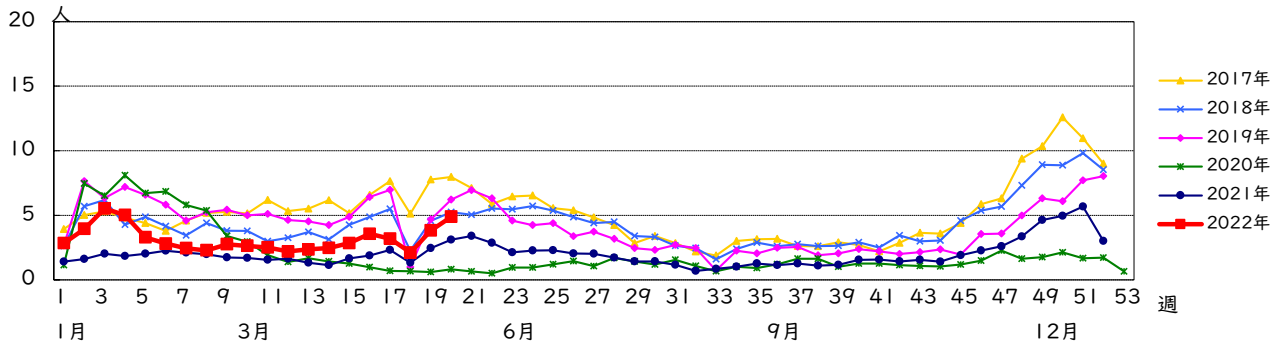
6 報告数と届出時点の重症度 (2021年第21週～2022年第20週)



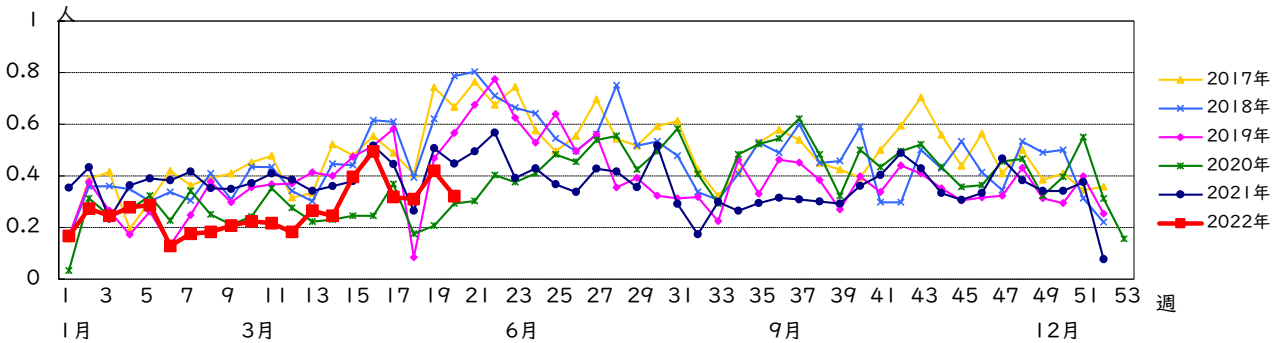
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第17週	4月25日～5月1日
第18週	5月2日～5月8日
第19週	5月9日～5月15日
第20週	5月16日～5月22日

1 感染性胃腸炎：昨年より高めで推移しています。第3週の5.52をピークに、第12週で2.19と減少していましたが、第19週3.83、第20週で4.89と増加しています。



2 突発性発しん：昨年より低めで推移しています。第19週は0.42と増加しましたが、第20週は0.32と減少しています。



3 性感染症(4月)

性器クラミジア感染症	男性:37件	女性:8件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:4件	女性:2件	淋菌感染症	男性:15件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週
細菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

5月期(2022年第17週～第20週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点28件、基幹定点4件、定点外医療機関からは3件でした。

アデノウイルス2型分離1株及びアデノウイルス6型分離1株が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第17週～第20週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎
アデノウイルス 2型	1 -
アデノウイルス 6型	1 -
合計	2 -

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

5月期(2022年第17週～第20週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌7件、大腸菌4件、サルモネラ属菌3件、カルバペネム耐性緑膿菌1件でした。非定点からの依頼はありませんでした。保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌4件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、侵襲性肺炎球菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、レジオネラ属菌2件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、小児科定点から腸炎が1件、咽頭炎が1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2022年第17週～第20週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	7	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (3)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Escherichia coli</i> (1)、 <i>Citrobacter freundii</i> complex (1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)
		大腸菌	4	<i>Escherichia coli</i> <i>kpsMT II</i> 、 <i>iucD</i> 、 <i>ompT</i> 遺伝子保有 (4)
		サルモネラ属菌	3	<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (1)、 <i>Salmonella</i> O4 : b : - (1)、 <i>Salmonella</i> O4 : i : - (1)
		カルバペネム耐性緑膿菌	1	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (1)
保健所		腸管出血性大腸菌	4	O157 : H7 VT1 VT2 (2)、 O26 : H11 VT1 (1)、 O26 : H11 VT1 VT2 (1)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (3)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Citrobacter freundii</i> complex (1)
		侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 22型 (1)
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	B群溶血性レンサ球菌 (1)
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2)
小児サーベイランス	材料	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	直腸ぬぐい液	腸炎	1	消化器系病原菌 不検出 (1)
	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	溶血性レンサ球菌 不検出 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】